

第3編
シンポジウム企画

1. シンポジウムの企画立案

1 - 1 企画概要

東北発コンパクトシティの考え方について、県や市町村等へ理解を広め、実現に向けた取り組みを促すため、シンポジウムの企画立案を行う。

(1) 目的

東北発コンパクトシティを実現するためには、市町村や県、国が中心となり、市民やその他様々なまちづくり関係者等へ周知を図り、共通理解を深めることが必要不可欠である。

そのため、本シンポジウムでは、東北発コンパクトシティの考え方や具体的な取り組みを示した「東北発コンパクトシティのすすめ」を紹介するとともに、市町村の地域特性を踏まえた取り組みについて情報提供を行うこととする。

(2) 開催場所

東北圏の中小規模の市町村

(3) 開催時期

平成 21 年 10 月

(4) 参加者

学識経験者、東北圏市町村及び県、国（関係省庁）など

(5) 内容

項目	内容
“東北発コンパクトシティのすすめ”の紹介	・東北地方整備局より、“東北発コンパクトシティのすすめ”の概要について説明を行う。
基調講演	・学識経験者より、東北圏を取り巻く状況と特性、コンパクトシティの考え方の必要性などについて講演を行う。
パネルディスカッション	・市町村より先進事例(仮テーマ:地域の実態を踏まえた土地利用コントロール)の紹介を行う。 ・学識経験者や市町村(行政)により、東北発コンパクトシティについてディスカッションを行う。 ・パネリスト等への質疑応答を行う。

1 - 2 プログラム(案)

東北圏のこれからのまちづくりシンポジウム

持続可能な社会を構築する都市

東北発コンパクトシティの実現に向けて

～東北圏の特性に配慮した中小規模の市町村でも取り組めるコンパクトなまちづくり～

日時 平成 21 年 10 / () 13 : 30 ~ 16 : 30 (開場 13 : 00)

会場

プログラム

- 13:30 1. 開会
- 13:30 2. あいさつ
国土交通省東北地方整備局企画部
- 13:35 3. 【報告】～東北発コンパクトシティのすすめ～
国土交通省東北地方整備局企画部広域計画課
- 14:00 4. 【基調講演】～中小都市や農山漁村における地域づくり～
大学 部教授 氏
- 15:00 5. 【パネルディスカッション】～東北圏のこれからのまちづくり～
<コーディネーター>
大学 部教授 氏
<パネリスト>
大学 部教授 氏
大学 部教授 氏
市 部都市計画課 氏
市 部都市計画課 氏
市 部都市計画課 氏
- 16:30 6. 【閉会】

主催：国土交通省東北地方整備局

2. 説明資料及び広報資料の作成

シンポジウムにおいて「東北発コンパクトシティのすすめ」の概要を説明するためのパワーポイント（PPT）資料を作成する。

また、広報用資料としてパンフレットデータを作成する。

東北発コンパクトシティのすすめ **【説明資料】**

1

◇目次

1. 東北圏における「コンパクトシティ」の検討の背景

2. 東北発コンパクトシティ

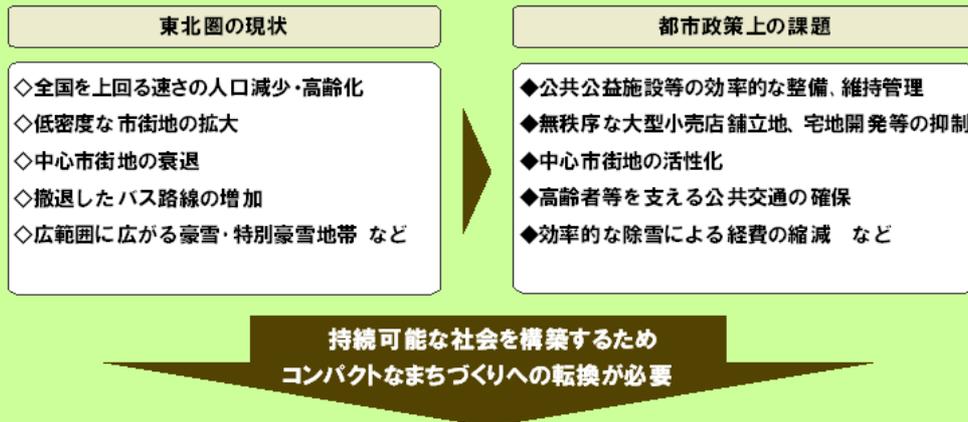
3. 実現に向けた取り組み

2

1. 東北圏における「コンパクトシティ」の検討の背景

○ 持続可能な社会に向けて

- 人口減少や少子高齢化など刻々と変化する社会経済潮流のなか、社会・環境・経済などのバランスを保ちながら、より効率的で持続可能な社会を構築していくことが重要となります。
- 都市政策においてはこれまでの右肩上がりの成長を前提とした拡大型のまちづくりを見直し、コンパクトなまちづくりへの転換が必要となります。

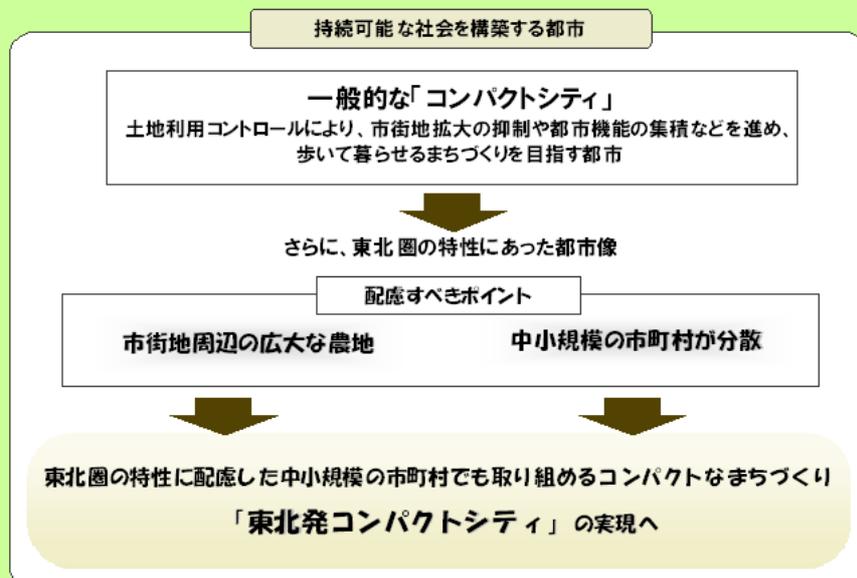


3

1. 東北圏における「コンパクトシティ」の検討の背景

○ 東北圏の特性にあった都市像へ

- 中小規模の市町村などすべての市町村が取り組むことができる、東北圏の特性に配慮した「東北発コンパクトシティ」を発信し、実現させていく必要があります。



4

1. 東北圏における「コンパクトシティ」の検討の背景

○ 東北圏で「コンパクトシティ」に取り組む上での視点

① 拡大型のまちづくりから「コンパクト」で質の高いまちづくりへ

- ◆人口増加を前提とした拡大基調の土地利用から、人口減少社会に適合したコンパクトな土地利用への見直しが必要。
- ◆市街地をコンパクトに保ちながら、誰もが暮らしやすい環境を目指すことが必要。
- ◆高齢化率の高い東北圏では、都市機能の配置や移動サービスの確保などに十分配慮することが必要。

① 全国一の人口減少率

② 少子高齢化の急速な進行

③ 豪雪地帯の暮らし

④ 低密度に広がる市街地

⑤ 郊外化が進む公共公益施設

⑥ 公共交通の利用離れ

視点①

拡大型のまちづくりから
「コンパクト」で
質の高いまちづくりへ

5

1. 東北圏における「コンパクトシティ」の検討の背景

○ 東北圏で「コンパクトシティ」に取り組む上での視点

② 都市の周辺に広がる農山漁村地域への配慮

- ◆東北圏は農山漁村地域で暮らす人が多いことから、特に市街地と集落の連携強化によるまちづくりが必要。
- ◆農業や地域経済の衰退が耕作放棄地を増やし、市街地拡大の圧力となることから、都市と農山漁村地域が連携して農地を有効に利用していくことが必要。

① 市街地周辺に農業集落が点在

- ◆中規模の市町村では、市街地(DID)外側に人口の6割が居住
- ◆東北圏の集落の7割が市街地(DID)近郊に点在

② 急増する耕作放棄地

- ◆30年間で耕作放棄地が4倍に増加
- ◆東北圏の耕作放棄地が全国の約4分の1を占める

視点②

都市の周辺に広がる農山
漁村地域への配慮

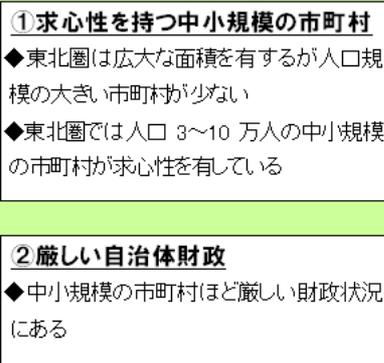
6

1. 東北圏における「コンパクトシティ」の検討の背景

○ 東北圏で「コンパクトシティ」に取り組む上での視点

③ 中小規模の市町村が分散する地域構造に配慮

◆東北圏では中小規模の市町村の役割が大きいですが、厳しい財政状況下では市町村単独で高次の都市機能を担うことが難しいため、近隣市町村との協力関係が必要。



視点③

中小規模の市町村が
分散する
地域構造に配慮

7

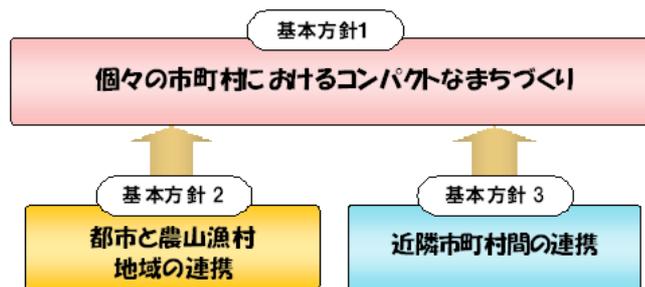
2. 東北発コンパクトシティ

○ 東北発コンパクトシティとは

- 「東北発コンパクトシティ」は、持続可能な社会を構築するため、東北圏の特性を踏まえた都市像であり、東北圏のすべての市町村が目指すことが求められます。
- 東北発コンパクトシティの考え方は、東北圏に広く分布する中小規模の市町村が取り組むことを想定したのですが、県庁所在地のような規模の大きい市町村でも十分活用できるものです。

東北発コンパクトシティの考え方

都市の周辺に広がる農山漁村地域との有機的な共生を図り、近隣市町村と都市機能を補完しあうコンパクトシティ(都市像)



8

2. 東北発コンパクトシティ

○ 東北発コンパクトシティとは

基本方針1 個々の市町村におけるコンパクトなまちづくり

●それぞれの市町村が、東北圏の伝統文化や地域性豊かな景観などを活かしながら、市街地の計画的な土地利用のコントロールと適正な都市機能の配置により、魅力的かつ利便性の高い空間を創出する。

基本方針2 都市と農山漁村地域の連携

●都市と農山漁村地域の相互において土地利用の整合を図り、水・緑豊かな環境に囲まれた市街地を形成する。

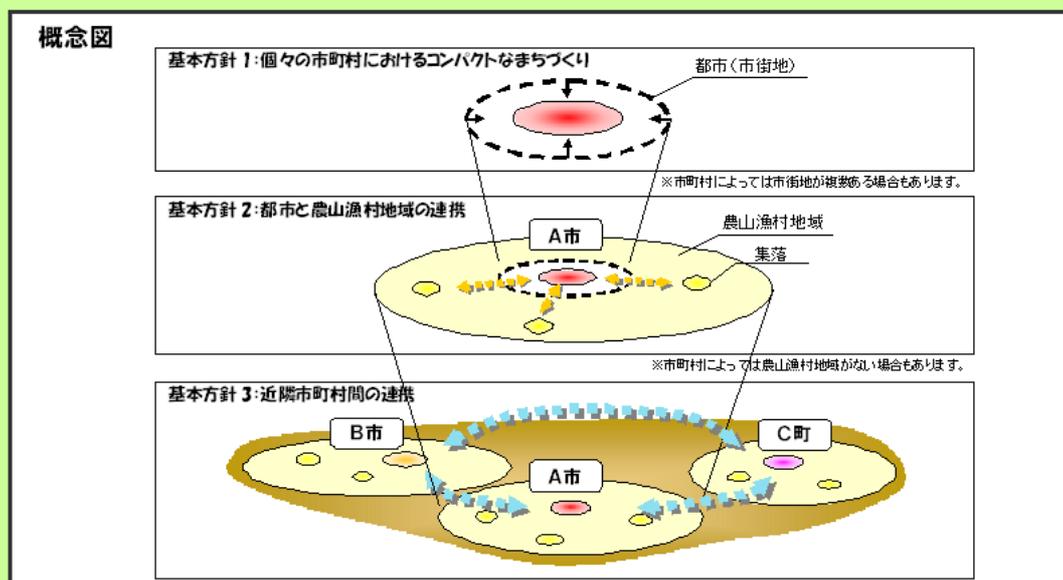
基本方針3 近隣市町村間の連携

●基礎的な都市機能を強化しつつ、より高次の都市機能については近隣市町村と補完し合うことで、効率的にサービスを提供する。

9

2. 東北発コンパクトシティ

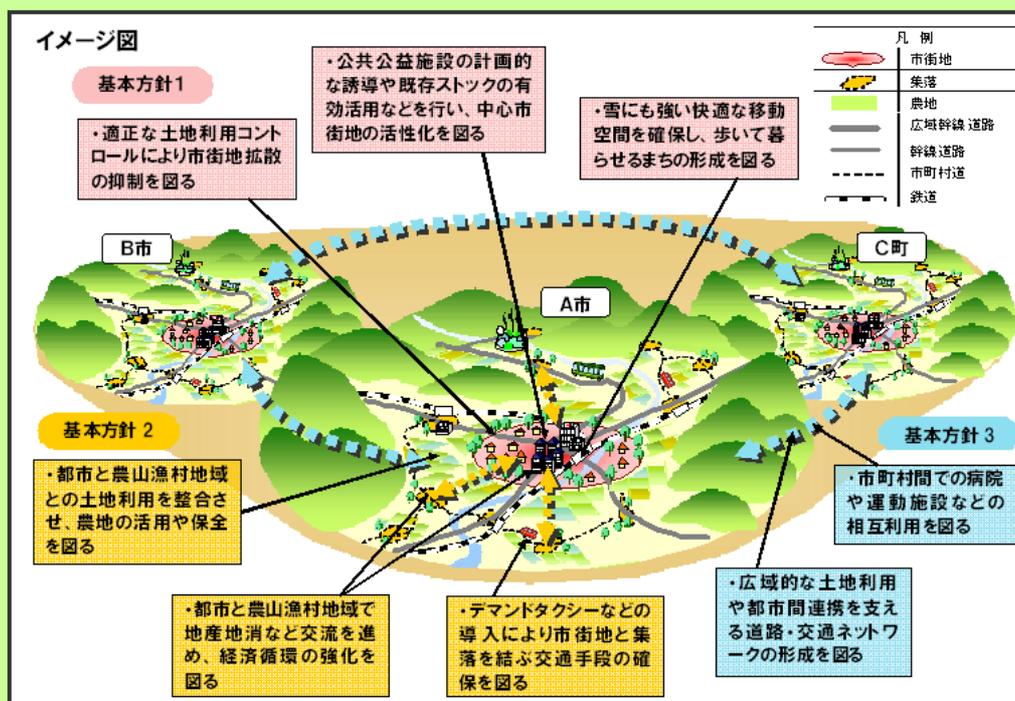
○ 東北発コンパクトシティとは



10

2. 東北発コンパクトシティ

○ 東北発コンパクトシティとは

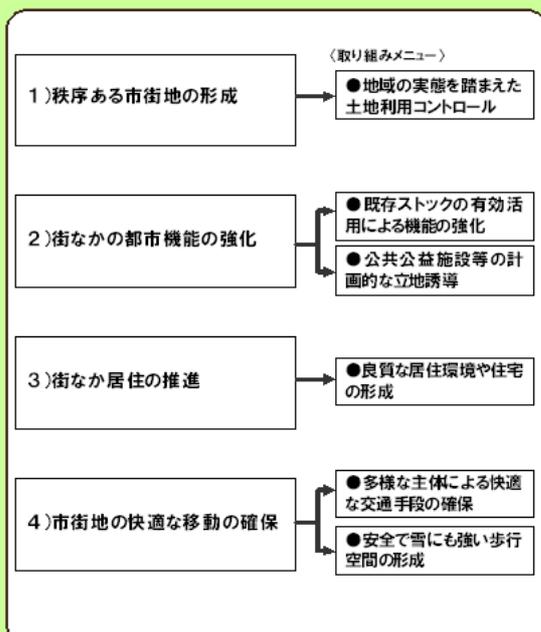


11

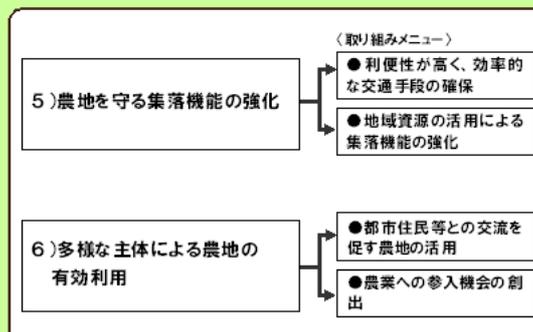
3. 実現に向けた取り組み

○ 重点的に取り組む施策

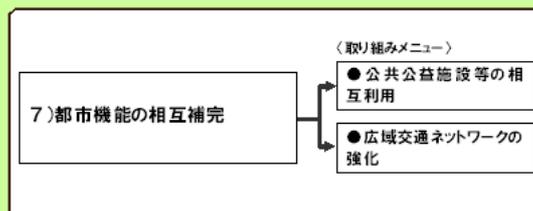
基本方針1 個々の市町村におけるコンパクトなまちづくり



基本方針2 都市と農山漁村地域の連携



基本方針3 近隣市町村間の連携



12

1. 東北発コンパクトシティとは

◆東北圏の現状・問題点

都市中心部

- 中心市街地の空洞化
- 低密度な市街地が拡大
- 財政難により都市機能の完備が困難等

周辺部(農山漁村地域)

- 耕作放棄地が大幅に増加
- バス路線撤退等による交通不便地域の発生
- 過疎化の進行(人口減少・少子高齢化)等

持続可能な都市の形成を図るため

◆東北圏の目指すべき方向性

基本方針

①個々の市町村におけるコンパクトなまちづくり

②都市中心部と周辺部の農山漁村地域の連携・共生

③近隣市町村との都市機能の補完・分担

東北発コンパクトシティの実現を目指す

都市周辺に広がる農山漁村との有機的な共生を図り、近隣市町村と都市機能を補完しあうコンパクトシティ

2. 東北発コンパクトシティの形成に向けた取組

対象都市

東北圏に広く分布する中小規模の市町村が取り組むことを想定。(概ね人口3~10万人)

※県庁所在地のような規模の大きい市町村でも十分活用できる考え方があります。

概念図

基本方針1:

個々の都市におけるコンパクトなまちづくり

都市(市街地)

基本方針2:

都市中心部と周辺部の農山漁村地域の連携・共生

農山漁村地域

集落

基本方針3:

近隣市町村との都市機能の補完・分担



イメージ図

基本方針1: 個々の都市におけるコンパクトなまちづくり

①都市機能の集約・高度化による効率的でコンパクトな都市づくり

基本方針2:

都市中心部と周辺部の農山漁村地域の連携・共生

②都市と農山漁村の連携と共生した関係の再構築



基本方針3:

近隣市町村との都市機能の補完・分担

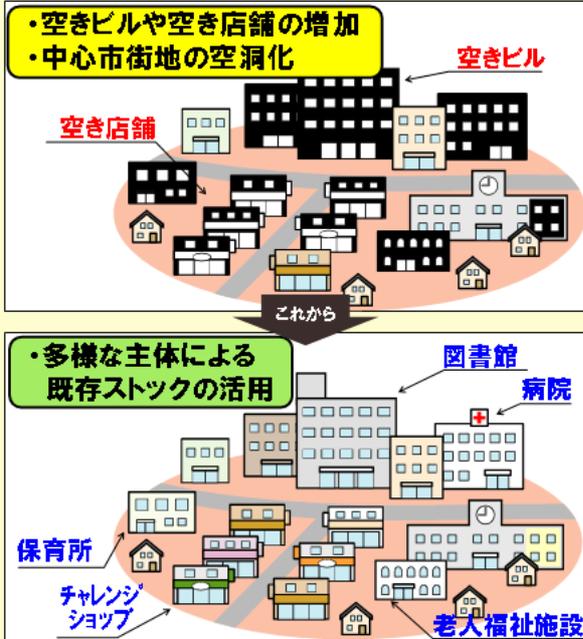
③都市の連携による地域づくりの推進
④地域間を結ぶインフラ整備と公共交通の確保

3. 取組例①

①都市機能の集約・高度化による効率的でコンパクトな都市づくり

- 駅周辺等における都市機能の集積
- 空き店舗等の利用による既存ストックの有効活用等

(例)既存ストックを活用した都市機能の強化



②都市と農山漁村の連携と共生した関係の再構築

- 農地の無秩序な開発抑制による保全
- 地産地消による農山漁村の活性化等

(例)地産地消による地域経済の活性化

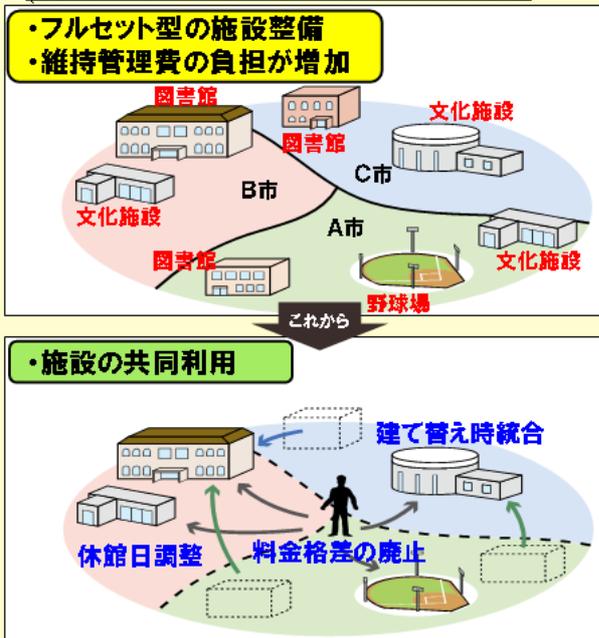


3. 取組例②

③都市の連携による地域づくりの推進

- 市町村間における医療・福祉サービス等の連携
- 運動公園や図書館等の共同利用等

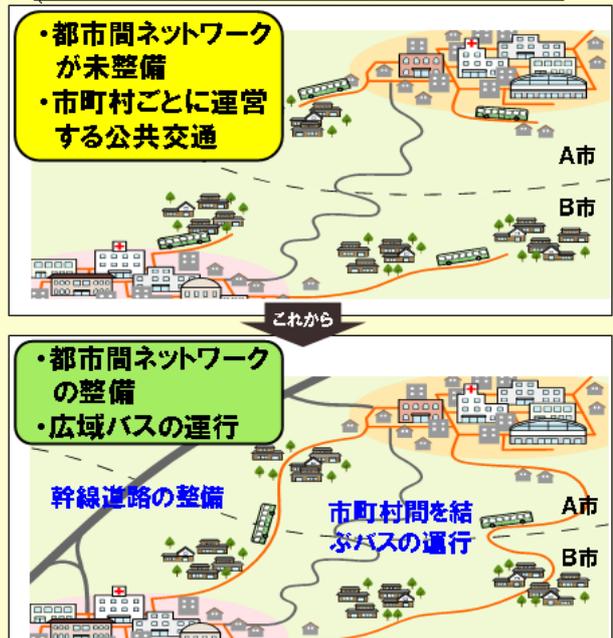
(例)公共公益施設等の統合と共同利用



④地域間を結ぶインフラ整備と公共交通の確保

- 幹線道路等の必要な整備、長寿命化
- デマンド型乗合タクシーの導入や既存バスの有効利用等

(例)市町村間を結ぶ広域交通ネットワーク



4. 国土交通省の役割

- 東北発コンパクトシティの周知活動
- 地方公共団体等が東北発コンパクトシティの実現に向けた取組を進める際の支援

